

## ミツバ（養液栽培）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型												
主な作業	浸播	定	収									
	種	植	穫									

ミツバ セリ科 原産地：日本

作物名 ミツバ

学名 *Cryptotaenia japonica* Hassk.

作型 周年（養液栽培）

(3) 暖房機

(4) カーテン（遮光、保温）

養液栽培のシステムは、育苗と栽培の施設が分かれていて、移植が簡単で、養液の交換やベッドの清掃が容易な施設が望ましい。

### 技術体系

#### 1 作型の特徴

軟化せず生育初期に茎葉の青い段階で収穫する「糸ミツバ」が主であり、ほとんどが水耕栽培で周年供給されている。

糸ミツバの定植から収穫までの所要日数は、春秋の栽培適期で約30日、夏期は40日、冬期は50～60日であり、加温施設を備えたハウスや温室では年間7～8回の収穫が可能である。

#### 2 栽培条件

##### (1) 温度

日中の気温は25～28℃、夜間は8～12℃を目標とする。培地温は20℃を目標とし、15℃以下、25℃以上にはしない。

##### (2) 土壌条件（培養液）

培養液のpH(KCl)は5.5～6.5が好適であるが、5.0～6.0の範囲内であれば問題ない。

特に夏場は、培養液中の溶存酸素量が不足しないように、培養溶液の1/2～1/3が更新されるようにポンプの運転時間を設定する。

##### (3) 施設装備

(1) 連棟ハウス

(2) 養液栽培システム

#### 4 経営目標（大分県参照）

(1) 収量 15 t / 10 a年

(2) 投下労働時間 1,700時間 / 10 a年

(3) 所得率 20%

(4) 経営規模 20 a

（家族労働力2人の場合）

### 栽培技術

#### 1 品種

白茎ミツバ

#### 2 育苗

ミツバの種子は発芽抑制物質を含んでいるため、1～2日種子を水に浸漬、水洗い後陰干してから播種する。厚さ2～3cmのウレタンに2.5cm×2.5cmの切れ目を入れて、1区画当たり10～15粒の種をまく。播種量が少ないと、大葉、太茎となって品質が低下し、多すぎると細茎となり、病気も多発しやすい。

播種後は直射光をさけ、培地温20℃前後で管理する。特に夏は注意する。

### 3 定植

播種後7～10日で子葉が展開する頃に定植する。発泡スチロール板に株間7×11cmで、1区画ずつ定植する。

### 4 培養液管理

培養液は園試処方第1例によってつくるが、ミツバの培養液濃度に対する適応範囲は広い。EC1.5～2.2ms/cm、5.5～6.5程度になるように調整する。栽培期間中にpHの調整幅が著しく大きくなる時は、培養液組成のバランスが悪化しているので培養液を更新する。

培養液中の溶存酸素量を多くするために、培養液の循環が必要である。

ポンプ稼働 夏・・・1時間運転 1時間休み  
冬・・・1時間運転 1時間休み

### 5 温度管理

耐暑性が小さいので、夏期の高温時には寒冷紗の被覆によって昇温させないようにする。培地温を25℃以上にしない。

春秋期及び冬期は、日中25～28℃、夜間8～12℃を目標気温とする。培地温は夜間20℃前後とする。

### 6 収穫・出荷

草丈20～25cmに達したものを抜き取り、水洗いし、傷んだ葉を取り除いて結束する。根は丸めて出荷する。